

全国ネット通信

Japan Network for Climate Change Actions NEWSPAPER

Vol.
43
July
2024



Index

徳島県から～環境教育の伴走～……………1	目指せ 脱炭素の島！ 長崎県杵崎市 ……4	スタッフ紹介……………6
「これからの10年に求められる気候変動政策」……………2-3	NEW 賛助会員……………5	「脱炭素チャレンジカップ2025」エントリー募集……………6
新年度スタート！ 役員の抱負……………3	うちエコ診断士資格試験……………5	
	エコアナウンサー 櫻田影子のミニコラム ……6	

徳島県から～環境教育の伴走～

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
理事長 高田 研

四国三郎と呼ばれた暴れ川の吉野川は北側に讃岐山脈、南に急峻な四国山地。中央構造線の断層に作られた河川です。徳島県センターから、この河川の上流と下流に位置する2つの小学校での活動報告がありましたので紹介します。

徳島市内から1時間半ほど川を遡るとその両側から山が迫り、河岸の田畑が段丘状に迫り上がって来ます。はじめに紹介する東みよし町立昼間小学校は讃岐山脈側の山際にあります。東みよし町は人口1万人ほど、森林率は8割。その半分が人工林でそのうち8割が既に30年を越えて伐期を迎えています。林業経営的には厳しい状況にあります。

昼間小学校での気候変動教育を伴走支援しているのが徳島県生活環境部 GX 戦略担当の大西希代先生と徳島県センターの布川洋之さん。昨年度より学校と話し合い、取り上げたテーマが防災と林業の2つです。

吉野川沿いは地震のリスクだけでなく、吉野川に南北両山地から流れ込む河川の土砂災害との闘いの歴史が長く、明治以後県は多数の砂防ダム建設を進めました。それでも現在のハザードマップを見ると、危険地域の赤塗りが山沿いをほぼ覆っています。温暖化による豪雨発生に伴う

危険からの回避は地域の重要なテーマです。

もうひとつのテーマが炭素の吸収源としての地域林業です。脱炭素を進める上で木材利用を経済的に成り立たせることが重要です。昼間小学校の児童は、地域材から薄いツキ板シートを製造する、地元企業の(株)ビッグウィルを訪問し、その取り組みから学びます。この後この学びがどう進むのかとても楽しみです。

つぎに、吉野川下流に位置する鳴門市立板東小学校。吉野川の下流には徳島平野が広がります。暴れ川だった川の歴史は本流の側に蛇行する旧吉野川に刻印されています。この旧吉野川の流域では蓮根栽培が盛んで、全国3位の生産量を誇ります。

鳴門市立板東小学校がある板東地区にはこの蓮田が広がります。蓮田に豊富に生息するカエルや魚類などの生き物を餌として、コウノトリが兵庫県豊岡市から約150キロ飛来し2015年に電柱の上に巣作りをはじめ、2017年から今年まで途切れることなく「鳴門板東ペア」と呼ばれるつがいが毎年孵化に成功し、現在までに24羽巣立っています。板東小学校では地元「認定NPO法人与自然体コウノトリ基金」の皆さんと連携し、コウノトリの繁殖を支え

る蓮田の減農薬、有機農業への取り組みや、それを「コウノトリれんこん」として商品化する試みなど、人の側に視点を据えて学習をデザインしています。“気候変動時代の農地の多面的機能”について徳島大学からも来ていただくなど多面的な伴走支援が始まり、地元新聞やテレビ取材も入って、県内で今この取り組みの話題が盛り上がっています。

学校への年間を通じた環境教育の伴走。これまでの普及啓発を越えた教育支援によって、2050年という未来を生きる知恵と行動力を持った人間を“社会実装”していくことに徳島県センターは想いを持って取り組んでいます。

活動記録の詳細はセンターHPにご注目ください。
(<https://tccca.org/active>)



コウノトリ (大塚町板東にて撮影)

特別記念対談

「これからの10年に求められる気候変動政策」

第22回の社員総会に合わせ、3人のゲストをお招きして特別記念対談を開催しました。

環境省地球温暖化対策課長の吉野謙章さんからは、環境政策について多角的な視点からご発表いただきました。

「いまや気候変動の問題は環境省だけの課題ではなく、経産省・農水省・国交省・総務省など省庁横断で取り組んでいる。私の仕事も他省庁と連携しながら行うことがとても多い。地域においても部署や組織の垣根を越えて、大きく転換していく必要があり、自治体の環境部局の方にもようお願いしている。みなさんも自治体や関係機関と連携して、地域に根差した取組を展開してほしい」と吉野課長。

地域センターへの期待として「地域・くらしのニーズにアンテナを」「環境の枠を超えて」「伝える×つなぐ×支える」というメッセージと共に、「今日の話は三者三様だが、噛み合っているのは思いが一緒だから。一緒に頑張っていきましょう」と力強いメッセージをいただきました。

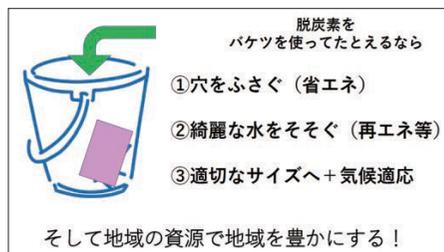
特定非営利活動法人温暖化防止ネット（佐賀県地球温暖化防止活動推進センター）事務局次長の松尾真理子さんからは、県内の金融機関や商工会、行政と連携した中小企業の脱炭素経営支援体制の取組をご紹介いただきました。

「脱炭素を通じて、県民の生活の質・佐賀の魅力・経済が向上することを目指している」として、変革の時代にあってセンターの役割もプレイヤーから中間支援

へ移行中であり、外部との連携「つなぐ」役割を果たすには、内部のスキルアップが必要とご発言いただきました。

公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）上席研究員の藤野純一さんからは、日本の現状を「穴の空いたバケツにたとえ、海外から輸入している化石燃料をジャブジャブ投入しているような状態」として、かたや世界では2050年に向けて再エネ比率を90%まで増加させるなど、大きなエネルギー転換が計画されている情報を提供いただきました。

「日本の地域は脱炭素の宝庫だと思います。若い人がエネルギーや収入源も含めて安心して暮らせるようになると、地域も豊かになると思う。地域センターには省エネや再エネに関する知識の蓄積や人材のネットワークづくりなど、豊かな地域を支えるための中間支援機能を発揮してほしい」とセンターへの期待の言葉をいただきました。



左から吉野謙章様、松尾真理子様、藤野純一様



吉野謙章様による講演の様子

フロアからの質問

Q：エコ通勤の取組を私たちの地域でも実現したいが工夫はあるか？

松尾 「事業者へ働きかけ、エコ通勤を推進する職場づくりに取り組んでもらうことが重要。エコ通勤手当の導入、通勤用自転車の貸与、電気自動車充電設備の開放など、県内事業所の取組事例を共有し、他の事業所の意識を高めている」

Q：「佐賀市における企業連携のコツについて」

松尾 「表彰制度や補助制度など、企業がメリットを感じるような取り組みをしている」

藤野 「インセンティブについては地域の実情に応じて、工夫したほうが良い」

Q：「地域の中間支援の必要性についてどう思うか？」

吉野 「地域脱炭素ドミノを推進するのは間に立つ人や組織。先行地域をどう展開させていくかというときに、中間支援機能が重要であり、地域センターの役割にも期待している」

新年度スタート！ 役員の抱負

皆さまから2024年度の抱負を一言ずついただきました。



理事長 高田 研

私たちは新しい世界に向けて、更に脱皮して生まれ変わりつつあります。ご支援ください。



理事 福岡 真理子
（一社）あきた地球環境会議
理事兼事務局長

多様な会員構成の強みを最大限に活かしつつ、地域文脈に則した脱炭素社会実装をデザインし、気候変動教育では「発展型未来」を目指してご一緒に考えていきます。



理事 杉江 弘行
NPO法人おつ環境フォーラム
副理事長

脱炭素社会を目指し社会は大きく変わろうとしている今、センターも普及啓発に加え、社会実装を目指す地域の核としての変革が求められています。一緒に考え、挑戦していきましょう。



理事 藤木 勇光

異なる専門性や背景を持つ現役の社会人が、気軽に真面目に交流し、将来社会の姿を描いて協力し合う、組織に働きかける、そんな新しい社会教育の場を作りたいと思っています。



理事 久保田 学
環境省北海道環境パートナーシップ
フィスフェロー

自然資本のフィズユースや域内循環とともにある脱炭素をめざし、それを支える中間支援組織、そこにつながる気候変動教育をめざしたいと思います。



理事 服部 乃利子
NPO法人アースライフネットワーク
専務理事

まさに、脱炭素は待たなし！それぞれのネットワークを活かして、地域からさらにギアアップしていきましょう。



監事 瀬尾 隆史
公益財団法人日本環境教育フォーラム
シニアアドバイザー

世の中が「変化(chance)」するときに「チャンス(chance)」と捉え、自ら「変化(change)」することを恐れず新しいJNCCAを創造するために地域センターとともに「挑戦(challenge)」します。



監事 白井 達也
NPO法人わかやま環境ネットワーク
理事兼事務局長

各センターの活動が一層必要な状況になりつつあります。引き続き役員として努めてまいります。

地域の活動紹介

目指せ 脱炭素の島！ 長崎県壱岐市

脱炭素社会に向けては、それぞれの地域の特徴に合わせた取組が進み、「2050年ゼロカーボンシティ宣言」や「気候非常事態宣言」を表明する地方自治体も増えています。

こうした中、全国ネットが事務局を担う「脱炭素チャレンジカップ2024」（今年2月開催）において、長崎県壱岐市がユニークな取組で環境大臣賞グランプリを受賞しました。

取組の舞台は地元企業が運営するトラフグの陸上養殖場です。太陽光発電で電力を供給するだけでなく、その余剰電力で水を電気分解し水素を貯蔵。夜間はその水素を用いて燃料電池を動かす「水素発電」によって、ポンプを稼働できます。地元の養殖企業は水素発電で育ったフグを“新たな壱岐名物”にしたいと意気込んでいます。

壱岐市は2019年、全国の自治体に先駆けて「気候非常事態宣言」を行って以来、脱炭素化に向けて独自の取組を行ってきました。気候変動によって島の水産業が打撃を受ける中、養殖に取り組む地元業者のニーズをうまくマッチさせた脱炭素の取組について、壱岐市総務部 SDGs 未来課 篠崎 道裕課長にお話を伺いました。

—改めて、どのような点が評価されたと感じていますか。

再エネや水素の実用化に、小さな自治体が入り組んでいるということが大きく評価されたと感じています。ただ、システムを安定して動かすまでの道のりは険しかったです。

変化の大きい太陽光を使って電力供給することや、その電力を使って水を電気分解するシステムを安定させることは非常に難しく、細心の注意が必要です。

バックアップとして使う蓄電池の放電量を高めたり、日射の状況を把握できるよう雲の動きを先読みする観測システムを作ったりと、試行錯誤を繰り返した結果なんとか実用レベルにこぎつけました。



—“脱炭素の島”に向けて、住民の理解は進んでいるのでしょうか。

海水温の上昇を背景に魚が獲れなくなるなど、住民も地球温暖化の影響を肌身で感じています。行政も住民も、危機的状況であるという認識を共有する中で、再エネを増やしていこうという方向性は概ね理解されていると思います。



ただ、現状では再エネ導入の拡大が難しい中「再エネを貯める技術」に着目し、水素の貯蔵と組み合わせました。さらに水素とともに、水の電気分解でできる「酸素」を養殖に活用できることも、この取組の特徴です。

システムをどこで実証するかという最初の入り口では随分悩みました。水産業が厳しい状況の中、陸上養殖で実証を行うことになり、しかも水素に加えて酸素も活用できるということで、地元のニーズにうまくマッチしたと考えています。



—壱岐発の取組は、今後、他の地域にも広がりそうですね。

ありがたいことに、昨年度は35件、400人以上の方に取組の視察に来ていただきました。まだまだ、実証の段階なので、コスト面などの課題がありますが、ある程度目処がたてば、壱岐と同じような離島、あるいは中山間地域などでも取組を応用していく余地があると思います。グランプリ受賞後は、シンガポールの大使館の方が視察に訪れたほか、太平洋島嶼国に向けてこの取組を紹介する機会もありました。壱岐市の取り組みが多くの方の目に止まるようになったのは、本当にありがたいと思っています。

壱岐で生まれ育った篠崎さん。理路整然とした語りの端々に、地元の人々やその未来に対する思いが滲んでいました。脱炭素に関しては、自治体、企業、住民が一体となった取組が求められる中、どの地域においても合意形成は決して簡単ではありません。実際壱岐市も、洋上風力発電の導入については、利害関係者としての調整に苦労していて、今後より丁寧に対応していくとしています。

よりよい地域社会の未来に向けて、脱炭素と地元住民のニーズをどうマッチさせるか。壱岐市の取組とチャレンジは今後も続きます。

NEW

賛助会員

エレビスタ株式会社（東京都中央区）

事業内容 再生可能エネルギー事業・Webメディア事業

私たちは脱炭素社会に向けて再生可能エネルギー事業を通じて、社会がもっともっともな未来にできるように貢献していきます。



リロン株式会社（東京都新宿区）

事業内容 不動産管理業・設備改修工事・不動産仲介

リロン株式会社は、不動産管理業務を通じて脱炭素社会の実現に貢献しています。オフィスビルやマンションなどのエネルギー効率を向上させるための設備改修や、省エネ対策を積極的に推進しています。また、再生可能エネルギーの導入をサポートし、持続可能な社会を目指します。地域社会と連携し、共に環境問題に取り組みながら、より良い未来を築くために尽力してまいります。



株式会社ドクナズ・ジャパン（東京都杉並区）

事業内容 映像・ホームページ制作、イベント企画運営

2008年の『ストップ温暖化「一村一品」大作戦』の運営に携わり、地球温暖化防止の取り組みを、長く応援していた株式会社オムの意志を継ぐスタッフを仲間に加え、賛助会員に参画させていただきました。当社は規模が小さいため、自社だけでできることは微力ですが、オフィス環境整備などに努めたいと思います。また、当社が所属しているグループ会社に脱炭素の取り組みを働きかけていきたいと思っています。



令和6年度（第11回）うちエコ診断士資格試験が始まります

「うちエコ診断士」の資格は、診断での活用はもちろんのこと、その知識を活かして企業・団体への省エネのアドバイス、講演などでも活用されています。脱炭素社会の実現や光熱費高騰で家庭の省エネに関心が高まっています。この機会にうちエコ診断士の資格を取得しませんか。

令和6年度うちエコ診断士資格試験は2024年10月初旬～2024年12月下旬での開催を予定しています。昨年に引き続き、CBT試験での開催となりますので全国の主要都市で受験することが可能です。

資格試験に関する最新情報はこちらに随時掲載していきます。



うちエコ診断士資格試験公式テキスト - 7月下旬 販売開始予定

うちエコ診断士資格試験公式テキスト「地球温暖化と家庭でできるeco」は、「基礎編」と「実践編」の2冊構成で7月下旬から販売を予定しています。「基礎編」は、地球温暖化問題の基本的な背景から最新情報、温暖化対策に関する制度や家庭での効果的な対策を解説し、「実践編」は、うちエコ診断を実施するために必要な知識・技術を身につけることができる内容です。なお、「基礎編」は、資格試験公式テキストとしてだけでなく、地球温暖化問題を学びたい方の自主学習、セミナーや勉強会のテキストとしても活用できる1冊です。





エコアナウンサー 櫻田彩子の ミニコラム



櫻田彩子 Sakurada Ayako

Profile

エコアナウンサー。テレビ朝日「じゅん散歩」のコンシェルジュ「ナビゲーター」ほか、「脱炭素チャレンジカップ」の司会など。全国ネット賛助会員。

「私は子どもを産まないほうがよいのでしょうか。あるワークショップで、私が20代の女性から掛けられた言葉です。気候、人口、経済、ジェンダーなどの課題を踏まえ、ありたい姿を模索するワークショップのこと。女性は自分と子どもの未来に希望を持つことをためらってしまったのです。

これからの地球環境を考えるほど将来を悲観してしまうことは想像に難くありません。この問題は非常に複雑です。好ましい解答は地球上の皆の模索で見つけられないように思います。

その答えのヒントとなるかもしれないと感じたのがこの夏上映中のフランスのドキュメンタリー映画「アニマル ぼくたちと動物のこと」です。気候危機や生物多様性、アニマルウェルフェア、経済や生きるための行動において二律背反となること、相乗効果となることを10代の二人が体験し学んでいく映画です。

冒頭の間に、あなたは何と答えますか。



虫こぶに多様性を見る

スタッフ紹介

事業部事業推進課
澤村 尚吾



キャッチボール



ハリネズミ

全国ネットに入社し4か月、諸先輩方のご指導ご鞭撻を賜りながら業務に励んでおります、事業推進課の澤村です。

前職は浄化槽の普及や研究、開発に携わっており、排水成分の分析や内部構造に関する講師を行ってまいりました。趣味は散歩で、週末は2時間半～4時間程度散歩しております。ほかにも、動物が好きでハリネズミを飼っていた時期もございました。

大学時代の教授とのご縁で上京したのですが、上京前は仙台に住んでおりました。カモシカが出現するような自然豊かな場所に住んでおりました。私の地元には多くのスポーツ選手を輩出している有名校が徒歩圏内にありまして、ダルビッシュ有選手（パドレス）が通っておりました。少年時代に私が公園で野球をして遊んでいた際に、「ちょっと打たせろ」と言って、ホームランを放って帰っていったこともございました。いい思い出です。

そんな地元では、降雪量がめっきり減っております。昔は一面銀世界が広がるほど雪が降っていたのですが、今では激減しており、気候変動の影響を肌で感じております。地元民としては雪が降ると早起きしなければならなくなるのでジレンマを感じるころではございますが、冬の風物詩が見られなくなるのは寂しいです。趣味のスノーボードができなくなるのも寂しいです。このような地域の色を残すためにも、気候変動対策に貢献できるよう、行動変容していきたいと考えております。まだまだ未熟ではございますが、どうぞよろしく願いいたします。



スノーボード

環境大臣賞を掴むのは
どの団体か！？

「脱炭素チャレンジカップ2025」エントリー募集

— CO₂ 排出量の実質ゼロを目指して—

脱炭素チャレンジカップでは、学校・自治体・NPO・企業などの多様な主体が展開している脱炭素を目的とした地球温暖化防止に関する地域活動について、書類審査、プレゼンテーション審査を行い、優れた取組を表彰している全国大会です。皆さまのエントリー、お待ちしております！！

地域大会を勝ち抜いた団体は、そのまますべての舞台へ、開催のご相談お待ちしております！



実績アリ
団体エントリー

【学生部門】【ジュニア・キッズ部門】
【企業・自治体部門】【市民部門】
書類審査→プレゼンテーション審査
→脱炭素チャレンジカップ2025当日

脱炭素な提案も/
-発想求ム-



開催概要

- ・会場とオンライン配信のハイブリッド開催
- ・日時：2025年2月20日(木)
- ・エントリー応募：7月～9月末

エントリーシート
のダウンロードはこちら



お問い合わせ先

脱炭素チャレンジカップ事務局 (地球温暖化防止全国ネット)
小野・澤村 TEL: 03-6273-7785
E-mail: zccc@zenkoku-net.org

編集後記

今回より、全国ネット通信の担当になりました。まだ7月に入ったばかりなのに初夏のような暑さが続いています。梅雨が明けたら更に暑くなると思いますが、みなさまもエアコンの温度設定を気にしつつ、上手に使用していきましょう！

(管理部経営管理課 若本 彩夏)

地球温暖化防止全国ネット通信

第43号 2024年7月
編集・発行 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(INCCA)
〒102-0074 東京都千代田区九段南3-9-12 丸の内ソニックビル7階
TEL: 03-6273-7785 <https://www.zenkoku-net.org/>



一般社団法人地球温暖化防止
全国ネットの活動をサポート
してください！

年会費：個人会員 1口 5,000円
団体会員 1口 20,000円

